

海外の話題

宴のあと

農林中央金庫 ロンドン支店長 曽我 道正

今年も残すところあと数ヶ月。ロンドン市内のショッピング街を貫くオックスフォード・ストリートでは、10月初旬から早々にクリスマスイルミネーションの設置準備が始まっている。少し気が早いようにも思うが、この一年を振り返ってみると、今年ロンドンの大イベントは女王陛下在位60周年に、やはり何と言っても夏のロンドンオリンピック・パラリンピックと言って良かろう。

開催へ向けての準備段階では道路や地下鉄の改良工事等が相次ぎ、市内随所で道路閉鎖や地下鉄運休などの形で市民生活に少なからぬ影響が及んだ。また、交通インフラの混乱を懸念し始めた当局が、混雑緩和を狙って大会期間中の在宅勤務や休暇取得、通勤時間・経路の変更を推奨するキャンペーンをはり、直前には期間中の車線規制・通行規制導入が報じられるなど、憂鬱な情報が先行。ロンドンで暮らす者の間には、うんざりムードが広がりつつあった。加えて、公式キャラクター（マンデヴィルとウェンロック）のデザインが若干斬新すぎたのか事前の評判は芳しくなく、いまひとつ盛り上がりに欠ける中でスタートを迎えた。しかし、いざ始まってみると雰囲気は一変。開会式もイギリスらしくウィットのきいた演出で、一気にお祭り気分が盛り上がった。パラリンピックも英国が発祥の地であること、地元英国選手が大活躍したことなどから盛り上がり、結果的には両方とも大盛況と言って良いのではないか。

夢のようだった宴が終わって1～2ヶ月が経ち、市内東部オリンピック会場近辺では宴のあと寂しさは否めない。テムズ川を渡るロープウェーも運行は続けられているようだが、平日は誰も乗っていないゴンドラが空しく川を渡っていく姿を見ることがある。ただ、メイン会場となったオリンピックパークはそのまま野晒しにされるわけではなく、欧洲随一の広大な都市公園を中心に、商業施設や住宅施設が立ち並ぶ新たなコミュニティとして再開発される計画とのこと。例えば8万人収容のメインスタジアムは終了後に観客席を半分減らせるように解体しやすい設計となっており、水泳競技場も観客席を解体し水深を浅くして市民向けの公営プールに転換する方針で、選手宿泊施設は集合住宅としてリフォームのうえ分譲される予定とのこと。今後数年間は解体、再開発工事でしばらくは槌音が絶えることはなさそうだ。

一方、ロンドン中心部では、タワークリッジを飾った大きな五輪マークも、市内80数ヶ所に設置された人間等身大の公式キャラクター像も全て撤去され、もうそんな事はすっかり忘れてしまったかのように日常の世界に戻っている。そして来るべきクリスマス商戦へ向けての準備が始まっている。通りに面した大手百貨店では、パリやニューヨークに負けじと、欧米でも人気の草間彌生さんデザインによるディスプレーがウィンドー全面を飾り、独特の水玉模様と本人をイメージした等身大像が華やかな雰囲気を放っている。歴史と伝統に根ざしつつも、異文化や異才を積極的に受け入れ、外の力もうまく取り込みつつ、オリンピックのようなイベントも消化して、次の何か新しいものをこの街は生み出していく。次へ次へ、前へ前へ。この街はしたたかだと思う。